

ロス・アンデスの聖テレサ（1900年7月13日—1920年4月13日）

<ホアニタ・フェルナンデス・ソラル>

1900年7月13日、チリのサンチアゴで、ミゲル・フェルナンデスとルシア・ソラルの間に生まれた。彼女は兄弟が3人と姉妹2人がいる。ミゲル、ルイス、イグナシオとレベカ、ルシアである。

1910年9月11日にホアニタは初聖体を受ける。彼女は6歳のときから、母親に連れられて、ミサに日々参加しており、初聖体の日から、キリストとの親密な毎日を過ごしていた。

また同時に、聖母マリアへの信心も、少女時代から持っていて、キリストとの友愛の道の中で、聖母の存在は格別大きかった。

1907年—1918年にサンチアゴの御心の学校に通い、最後の3年間は、この学校の寄宿生活を選び取ったが、彼女にとって家庭から離れて暮らすことは難しい時期でもあった。しかし、カルメル修道会へ入会するための神のご計画でもあった。結局、1919年5月19日にチリのロス・アンデスのカルメル修道院に入会する。同年10月14日に修道誓願を宣立に、修道名としてイエスのテレサを受け取る。

内的な動きとして、ホアニタが14歳のとき御主が彼女の心に語り掛け、「あなたの心を望む」という召命を受ける。その後、カルメル会の諸聖人の作品に接し、この時期にロス・アンデスのカルメル修道院長との接触も始まる。彼女が受け取ったカルメル会の理想は、「苦しむこと、祈ること」であった。彼女は最終的に、世の中を清めて良くするための奉仕として、自分の犠牲を全うするという光を受けていた。

1920年4月12日、修道奉献生活に入って1年も経たないうちに、彼女はチフスに感染して帰天してしまうが、彼女の聖性は、カルメル会入会前からその歩みに従がっていた。「キリストの愛の狂気が、わたしをも変えてしまった」といえるほどに、キリストとの親密な友情が深まっていた人生であり、キリストの贖いの業をキリストと共に行う喜びを持っていた人である。

1987年4月3日にチリのサンチアゴにおいて、ヨハネ・パウロ二世によって、福者に上げられ、若者の模範として示された。1993年3月21日にローマにおいて、同教皇によって聖人に上げられた。

<ロス・アンデスの聖テレサの「唯一、愛によって、苦しむキリストに従う」考察>

今日の朝から、わたしは悲しみのうちにおりました。突然、イエスの御心がこのようなわたしに語りかけました。「喜びを持って、苦しむように」。このような苦しみをお与えになります、それを受け入れるだけで十分でした。二つの理由から、わたしにこの苦しみを好きにさせます。第一の理由は、イエス様が生まれた時から十字架の死に至るまで常に苦しまれたことです。したがって、全能者が絶えず苦しみをお探しになるように、その苦しみは偉大なものであるはずである。第二の理由は、霊魂たちが、この苦しみの金床でよりよく形作られるからです。特に、イエス様はご自分の愛おしい霊魂に、この贈り物をお与えになります。そして、イエス様はわたしに次のように言われました。「わたしは人々の救いのために、喜びを持ってカルワリオに上り、喜びを持って十字架に架かりました」。「あなたもわたしを探して、わたしのために模倣しようと望んでいるのではないのですか。わたしのもとに来て、愛と喜びを持って十字架をわたしと共に担ぎなさい」。

<日記 15、唯一、愛によって、苦しむキリストに従う（聖母マリア的視点より）>。